

令和元年度 第2回苫小牧市環境基本計画推進会議 会議録

令和元年10月15日(火) 13:30~15:00

苫小牧市民活動センター 会議室2

上田会長

～開会挨拶～

本日は、足立委員、近江委員、川上委員、久保田委員、堀抜委員、山川委員が所用で欠席という連絡を受けております。なお、足立委員と近江委員は今回新たに就任された委員です。この後、事務局から報告があります。

それでは、会議次第に沿って進めて参ります。まず、次第の2 報告等を事務局からお願いします。

環境保全課長

はじめに、委員の就任についてご報告させていただきます。

今期の委員の推薦を依頼させていただいていた、苫小牧市教育研究会環境教育部会様より、近江 祥一様が9月6日をもって本会議の委員に就任されました。

次に、委員の交代についてでございます。

株式会社イワクラの清原 様のご退職のため、7月20日をもって退任され、後任として新たにご推薦いただきました 倉知 英治 様が7月21日をもって本会議の委員に就任されました。よろしく願いいたします。

また、北海道電力株式会社送配電カンパニー苫小牧支店の川西 様が人事異動のため、6月26日をもって退任され、後任として新たにご推薦いただきました 足立 浩哉 様が6月27日をもって本会議の委員に就任されました。

最後に、今期から本会議の委員として、苫小牧市の環境保全にご尽力いただいた、齋藤 忠勝 様ですが、8月23日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。このことによる欠員に対しては、今後新たに公募を行う予定です。事務局からは以上です。

上田会長

ありがとうございました。ただいま委員の交代の報告がありましたので、倉知委員より簡単に自己紹介をお願いします。

倉知委員

～自己紹介～

上田会長

ありがとうございました。次に次第3、議題(1)「苫小牧市第3次環境基本計画に関する市の具体的取組状況(平成30年度)について」を、事務局から説明をお願いします。

環境保全課主査

～苫小牧市第3次環境基本計画に関する市の具体的取組状況(平成30年度)について説明～

上田会長

ありがとうございました。苫小牧市で作られた環境基本計画という計画が、しっかり推進されているかどうか確認する、あるいは自分たちが計画の推進を担うのがこの会議だと認識している。この報告に対して何かあれば御発言ください。

A 委員

この取組の設定や評価は、同じ課がやっているのか。

上田会長

第三者の評価というよりも、担当課による評価である。

我々は今、この話を広げていくべきではないと考えるが、評価の在り方という議論も、どこかであっていいのかも知れない。

B 委員

おおむね評価が良いが、その根拠を添えてもらうのは難しいか。

例えば、「低炭素建築物認定制度の周知に努めます」という目標に対し、低炭素建築物認定申請が4件あっただけで◎になるのは疑問である。この4件がどのくらいすごいことなのかが分からない。専門家ではない私たちにも分かりやすいような根拠を添えていただきたい。

C 委員

我々としては、この評価についてどこかで尋ねられた場合、責任をもって答えたい。このままでは我々も理解できない。

環境保全課主査

こちらの市の具体的な取組に対して、1つ1つの定量目標というものは現在設定していない。各課で取組に対しての評価がどうであったのかというものは主観的に評価してもらっている。B委員がおっしゃったとおり、1つ1つの取組に対して定量目標が設定できるのであれば、そういう形で設定して達成度という形での表現をしていきたいと思っているが、それがなかなか難しいため、計画としての達成度は先ほどあったとおり、総合計画の満足度や環境基本計画の各項目についての定量目標の達成度を最終的な報告とさせていただきたい。

上田会長

つまり、これに対する明確な根拠はないと。しかしそれをすべてに求めるとなると、ものすごく膨大な指標と専門性が必要になり、かつ、第三者的な評価となると、もう1つそこに評価委員のような組織が必要になる。その時間と手間、あるいはコストが用意できるのかというところは、今後の議論で・・・

B 委員

他の取組に関しては、中には大きな数字が結果として出ていて、評価として読み取れるところがある

が、低炭素建築物認定申請 4 件というのは全く分からなかったので尋ねてみた。

環境保全課長

これに関しては、目標件数を持つというのは難しいと思う。申請する方もいればしない方もいる。低炭素建築物そのものにも様々な条件があって、費用もかかるため、出来るか出来ないかというところで、目標は有って無いようなものなのではないか。先ほど主査が申したとおり、目標が設定できるものは設定していきたい。

環境保全課長補佐

市内で低炭素建築物を始めとする、省エネルギー住宅が普及しているかというところ、これからというところで、目標何件というように設定するのは、お客様の事情等によるので難しいと思う。

上田会長

今ここ議論すべきは、細かいところではなく、我々推進委員が計画を推進するためにどの情報を持っておくべきかというところだと思う。そういう意味では我々が会議として、この目標や評価に対する根拠をもっと勉強しておくべきである。それらの情報がインターネット等で公開されているのなら、我々は積極的に見なければならぬし、公開されていないのならば、事務局をと通して教えてもらう必要があるというのが、今の我々の立場だと考える。

環境保全課長補佐

個別の目標を設定するのは難しいが、省エネルギーの推進における最終的な目標として、苫小牧市全体のエネルギー消費量を指標としており、先ほどの様々な対策を取り組むことによって、どのような効果が出ているのかという風に総括的に出てくる。

確かに、記述内容として難しいところはある。今日お答えできない部分に関しては、担当課に詳しいことを聞いて、後ほど情報をお伝えするという形を取らせていただきたい。

上田会長

先ほどの最初の議論にもあったが、この取組に対する評価は役所が行ったものであるものの、本当に良いのか悪いのかは人それぞれの捉え方である。これらに対する専門性はどこかで必要になってくるであろう。そこまで行けばある意味、理想的な組織になっていくのだろうが、これはまた別の能力が必要になっていくのだと思う。

我々の今の立ち位置と、この報告に対する姿勢をご確認いただけたらどうか。

D 委員

私の勉強不足もあるが、やはり言葉が少し難しい。我々が日頃の生活の中で、周りの市民に説明することが難しい。

上田会長

こういう活動なので、正しい言葉で正しく表記されるべき。しかし、それはつまり言葉が難しい。我々も勉強しつつ、記載する側も言い換えられる文言を用意するだとか、そこがお互いの仕事ではないかと感じる。

それでは引き続き、議題（2）「令和元年度事業結果」について事務局から説明をお願いします。

環境保全課主事

～令和元年度事業結果について説明～

上田会長

ありがとうございます。この夏に開催された2つの事業に関して、何かあれば御発言ください。

E 委員

せせらぎスクールについては、当日とても天気が良く非常に暑かった。子どもたちはとても楽しんでいる様子だったが、同伴の保護者はみんなタープの中にいた。

今までになかった風力発電機づくりといった工作を取り入れ、遊びながら自然エネルギーについて学べる要素があって良かった。しかし、その時用いた発電用モーターが高額で、教材店等で扱っているものだったため、子どもに渡してあげられなかったのは残念。予算的に余裕があれば持たせてあげたかった。

ウトナイ湖漁業体験についても、小さな子どもから、お年寄りや障害を持った方等、たくさんの市民が参加してくれた。このような事業に参加することで、17万都市の市民が少しでも環境に関心を持っていただければと思う。

F 委員

参加者はどのように募っているのか。

環境保全課長

広報とまこまいやホームページ通して募集している。

G 委員

せせらぎスクールに参加したが、毎年同じような内容で実施しているのか。

環境保全課長

毎年好評なため行っている。今年は少し趣向を変えて風力発電を取り入れたが、少しずつ中身を変えていきながら実施していきたい。

C 委員

今回の調査結果を道に上げたとのことで、13時から15時半の中で25名が7月30日に調査を行ったら、これくらいのもものが捕れたと。貴重なデータだと思う。これまでの結果が、変遷として、覚生川がき

れいになっている、汚くなっているという資料として出る。ということは、子どもの遊びが環境の指標の1つとなっている。ものすごく大きな貢献度があると思うが、その価値はもっと掘り起こした方が良いのではないか。すなわち、これは推進会議事業としてではなく違うところで、毎年粛々と実施した方が良いのではないか。それくらい良い事業なのに、推進計画事業であるために、いつかデータが寸断される恐れがある。非常にもったいない。

同様にウトナイ湖漁業体験も毎年実施すれば、捕れる生物の変遷などが分かり、イベントが調査の一環となる。

環境保全課長補佐

せせらぎスクールに関しては毎年、北海道を通して国に報告しているので、過去のデータの蓄積はある。

上田会長

毎年このような事業を実施することで、指標が具体的なデータとして残り、水質が良くなったとするならば、まさに環境基本計画の推進に寄与しているということ、誰も文句のない状態で示すことができる。またそこに市民が寄与しているという評価につながる。子どもたちは遊び、大人たちはその遊びを調査として利用すれば良いのではないかと考える。

後はいかがでしょうか。それでは続きまして議題(3)「令和元年度実施予定事業」について事務局から説明をお願いします。

環境保全課主事

～令和元年度実施予定事業について説明～

上田会長

ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありましたが、何かありませんか。

E 委員

「秘密基地を作ろう！」の現在の応募人数はどうなっているか。

環境保全課主事

21名です。

上田会長

他になれば、引き続き議題(4)「令和2年度事業企画案」について事務局から説明をお願いします。

環境保全課主事

～令和2年度事業企画案について説明～

- ・「ごみのゆくえを知ろう クリーンセンター・リサイクルプラザ見学会」
清掃工場とリサイクル施設を見学する。
- ・「水の賢い利用で資源の大切さ」
委員による水資源についての講義を通し、日々の生活における水利用の有効化を学ぶ。
- ・「馬で草刈り」
膨大なガソリンを費やしてしまいがちな公共施設の草刈りを、馬で実施する。電気牧柵を張り、スタッフが常駐して管理にあたる。馬糞はその施設にある花壇や畑に堆肥として使ってもらおう。
- ・「ごみの分別・減量化、電気の使い方（大切さ）講習会（講演会）」
ごみ減量化、（プラ）ごみの分別化についての講習会（講演会）を実施し、海に流されるプラごみはなぜ海の自然（魚ほか）を破壊するのかを理解してもらおう。
- ・「バイオマスエネルギー見学」
木質バイオマス燃料の生産と稼働状況の見学
- ・「自然の恵み収穫・調理体験」
市内の森から山菜・木の実・きのこなど、季節に応じた食材の調達・処理・調理を体験する。
- ・「せせらぎスクール」
川で生物の採取・観察。手軽にできる工作（水車・ほかけ舟など）。
- ・「苦東見学会」
苦東弁天沼周辺は安平川の治水対策として、遊水池とすることが決まり、平時の活用に河川学習などを予定している。環境基本計画推進の事業として見学会を実施する。
- ・「市内バイオマス発電所見学」
バイオマス発電排出 CO₂ は温室効果ガスの CO₂ にカウントされない。それがなぜか知ってもらおう。
- ・「せせらぎスクール」
川で生物の採取・観察、水質調査などを行う。
- ・「リペーパー」
廃棄される紙を利用し、新しい紙を生成する。

上田会長

みなさんお忙しい中、御提案いただきありがとうございます。できれば各委員から補足等をお願いしたい。

F 委員

市民からこういう事をやりたいという意見はないのか。

環境保全課主事

資料 2-1、2-2 のアンケート集計結果に記載している。

上田会長

ニーズは探っていると。

各委員、それぞれの企画案に何か付け加えることはないか。

A 委員

「自然の恵み収穫・調理体験」について、場所を「市内の森」と書いたが、別に森でなくても良く、公園や道端にもタンポポの花や根など食べられるものはあるので、そういったところも利用しながらやっていければ。森の中に入っていくのが難しいのであれば、もう少し街寄りのところで出来ることをやるということでも良いのではないかと思っている。

B 委員

「苫東見学会」について、交通手段がバスとなると予算的に厳しいかと思うが、苫東まで行く市民がなかなかいないと考えると、交通手段も限られてくる。できれば市民に参加しやすい事業にしたい。見学自体は、株式会社苫東に届出を出せば可能だと思う。

H 委員

業務に追われて企画案を提出できなかった。協力できることがあればいつでも協力はしたい。市の広報には基本的に協力している。

C 委員

「馬で芝刈り」についてだが、私はイベントのようなやり方で計画が推進するとは思っていない。普段の暮らしにこういう活動が入っていくべきだと思っている。普段草刈りで刈っているような草は、馬の餌になる。馬糞も米ぬかを混ぜれば堆肥になるので、それが花壇や畑に戻っていけば、草と堆肥の間に生き物を1つ入れるだけで永遠にそこを回り続けるという絵が作れる。これをイベントで「すごいよね」とやるのではなく、我々が普段の施設に出向いて行って、回数を重ねれば従来のイベント以上の動員数を得られると考えた。こういったモデルを作り、「苫小牧市の緑地管理は馬がやっています」と打ち出すだけでも、かなり計画が推進されるのではないかと思う。

また、この中で考えたのは、「秘密基地を作ろう！」で子どもたちが引き出した丸太や枝を、株式会社

イワクラさんに引き取ってもらい、それらがバイオマス資源に変わるところを見学するという、ダイナミックな視点で、経済や業務として繋がっている絵は見せられるかと思う。

E 委員

「馬で芝刈り」という提案はとても良いと思う。生産性があり、生命の循環がある。とても興味深い。

上田会長

他にありませんか。予算も潤沢にあるわけではないし、先ほどのアンケートの結果を反映させる必要もある。やれるものをすべてやるという訳にもいかない。事務局の都合も分かる。各委員からの提案をこのように全体で共有した上で、ここから、これをどのようにしてやっていくのかについては事務局に一任するというこでよろしいか。

委員一同 承諾

上田会長

事務局側もよろしいか。

環境保全課長

承知いたしました。

環境保全課主事

事務局内で検討した結果は、次回の第3回会議にて報告いたします。

上田会長

他にないようであれば、続いて次第4の「その他」ですが何かありませんか。

環境保全課長補佐

先ほどのせせらぎスクールの調査結果についてだが、「全国水生生物調査」という環境省のウェブサイトに掲載されている。

上田会長

なければ最後に、次回の推進会議の開催について日程などは事務局から後日、連絡を行うことよろしいか。

委員一同 承諾

上田会長

これにて第2回環境基本計画推進会議を終了します。どうもありがとうございました。